

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0 1 9 5 5 0 0 6 6 0		
法人名	株式会社じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム 菜の花 豊平館		
所在地	札幌市豊平区豊平3条8丁目1番18号		
自己評価作成日	平成26年10月3日	評価結果市町村受理日	平成26年11月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tr&JigyosyoCd=0190500660-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 26 年 10 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・防災や災害時の設備で、防火扉・救助袋・階段滑り台・発電機・ジェットヒーターと災害時への設備が充実している事と年4回避難訓練実施、災害に対しての取り組みに力を入れています。 ・ご家族様に日々の様子が分かるように、毎月写真付きの新聞を作成し郵送しています。 ・毎月外出行事も含めてイベント計画している事と夏祭り・敬老会・クリスマス会には、地域やご家族様も参加できる行事を行っています。また、地域資源を活用し、町内会ボランティア（ザ北都星）によるカラオケショーを定期的に開催すると共に、近隣の保育園（福ちゃん保育園）と接する機会を設け、学習発表会見学・運動会見学・ホームでの交流会と複数回に渡り園児たちと交流を図っています。 ・駐車場屋上スペースを利用した屋上庭園では、入居者様とご家族様と一緒に家庭菜園を行い、楽しめるように取り組んでいます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

有限会社 ふるさ

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念の唱和、ケア理念の中から1日の目標理念を定め、介護日誌に評価をし、反省点がある場合は、次の日も同じ目標にし改善に努めている。毎月職員全員で月の目標理念を定め、自己評価し理念に対しての意識を高め、実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアによる歌謡ショーや町内清掃等の町内会活動への参加、近隣の保育園との交流等、地域との交流の機会を積極的に行っている。また、事業所の夏祭りにはたくさんの地域住民の方が参加され、交流を持つことができた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に医療関係者や福祉用具専門員等の専門職を招き診療報酬改定について、口腔ケアの重要性、最新の福祉用具の紹介をしていただいたり、感染症や防災対策等、その時のタイムリーな情報を地域住民やご家族様と共に学ぶ機会を設けている。		
4		3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑義が生じた際は電話にて相談したり、管理者の異動・交代等変更がある場合については、直接出向き協力関係を築けるよう体制づくりをしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人のスタッフは新人研修に参加して身体拘束をしないケアについて学んでいる。今年1月の外部研修にもスタッフが参加し、学んだ事をカンファレンスで報告している。また、スタッフが主体となり身体拘束について勉強をしてカンファレンスで発表し、参加者全員で話し合いを行った。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内外研修に参加し、スタッフが主体となり高齢者虐待防止について勉強しカンファレンスで発表を行った。言葉使いや表情・接遇など日頃のケアを振り返り、良い例・更に努力・学習が必要な事例を取り上げ具体的な研修と話し合いが出来た。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が成年後見制度について知識が持てるようカンファレンスにて内部研修を行っている。今後、必要に応じて支援に努めていく。また、ご家族様で成年後見制度を活用している方がおり、家族会でお話しして頂く機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定・重要事項説明書を用いて、契約時の説明を本社と共に行った上で契約を結んでいる。また、改定時には、書面を通して説明しご家族様の疑問点についてはその都度説明し理解を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カウンターにアンケート用紙を用意し、玄関入口にアンケートボックスを設置している。ご家族様より、ホームの外出行事に参加したいとの希望があり、家族会に向けて外出行事についてのアンケートを募ったところ、お食事会への希望が多かったので、行事計画を立て今後実施する予定。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、管理者会議・リーダー会議・カンファレンスの中で代表者・管理者は職員の意見を聞く機会を設けている。年に1度、業務・マニュアルの見直しについて必要に応じて改善・変更をしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の能力・努力・実績を考慮し、管理者の意見や要望を取り入れて準社員・正社員の登用をしたり昇格に努めている。20歳未満の子供を扶養している世帯に対して手当が支給される事になった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修ではスタッフの積極的参加を促している。社内研修では、新人研修・ケアプラン研修・その他、職員からの要望等を聞き、要望の多かったアクティビティー研修を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡会・外部研修に参加し、様々な事例への取り組みを具体的に聞き、お互いの情報交換を行う機会があった。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人様・ご家族様から、不安に思っている事や要望などを十分に聞くように努めている。初期の段階で細かくアセスメントを行っており、日々のコミュニケーションの中から本人の思いを汲み取るようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前に、面談を行い基本情報シート・ホームでの生活で望む事を記入して頂き、出来るだけ要望を聞くことで、ご家族様の不安を取り除くように努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時のご本人様の心身状況を把握し、ご家族様と相談しながら訪問診療・リハビリなど専門職との連携を取り必要に応じてサービスを利用している。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	庭園での野菜作りでは、野菜の成長過程でアドバイスをもらい育て、収穫を行った。また、買い物に一緒に出掛け、おやつを選んでくださったり、荷物を運んでいただいたりと共に支え合う関係ができている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	屋上庭園での野菜作りでは、ご家族様も参加して下さったり、外来受診の同行をして下さっている。お誕生会には全てのご家族様が出席され職員と共に祝いをしている。		、	
20		8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方に住んでいるご親戚の方が面会に来やすいように事前にスケジュールをお知らせしている。毎年、娘様達と生まれ故郷へのお墓参りや、ご家族様と住み慣れた家に外泊が出来るように準備をしている。お正月にはそれぞれのご家族様に手書きの年賀状を送っている。		
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	必要に応じて、入居者様同士の関係がバランス良く保たれるように、座席などの工夫・配慮することで、入居者様同士の関わりが多くみられている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	一昨年から退去者がいないため、取り組みとしては行っていない。必要に応じて本人やご家族様の相談に応じ、情報提供などの支援に努めたいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの変更時に、時間を取り、希望や意向を伺い何気ない会話や行動から気付いた事は気づきシートに書き込み複数のスタッフの情報も参考にして検討しケアプランに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族様にそれまでの生活歴や趣味・嗜好等を基本情報シートに記入して頂き、できるだけこれまでの暮らしを継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、記録や申し送りにて情報収集を行っており、心身の状態についての伝達を行い情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	持病を持っている入居者様の病状が悪化しないように、調理方法を本社教育課や栄養士に相談し、介護計画に反映させ、アドバイスをしてもらった方法で調理している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉やその時の表情をより詳しく記入する事を心掛けている。日々の変化は気づきシートに記入しモニタリング・アセスメントに反映させ、カンファレンスで話し合い情報の共有と介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外来受診に、ご家族様が同行出来ない場合は病院への送迎・同行をしている。個別の対応として、喫茶店・買い物の同伴の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会ボランティアと定期的にカラオケショーで交流が図れた。地域の保育園との交流では学習発表会見学・運動会見学・ホームでの交流会で子供達とふれ合うことが出来た。町内清掃・花植えなどの町内会活動にも参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回、訪問診療を受けている。24時間いつでも電話での相談が出来、状況に応じてアドバイス・緊急薬の処方をしてくれる。その後の経過報告により緊急性がある場合には夜間であっても往診にも来てくれる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週 1 回、本社看護師が来て、1 週間の体調・気分の変化や直近の往診記録・お薬情報等を伝え相談、アドバイスをもらえる体制を取っている。入居者様の状況によって訪問診療時に立ち会い、職員と情報の共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療の必要が生じた際は、入院時に必要な情報を伝えており、治療内容や経過、本人の様子、退院の予定等、タイムリーに情報を共有している。また、入院先の医師より主治医やホーム職員に対し、情報提供していただくなど、医療機関との関係づくりが行えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化について説明した上で、意向書に記入頂きご本人様・ご家族様の意向を伺っている。家族会で重度化や終末期について事業所で出来る事・他館での看取りの事例を説明し、ご家族様が疑問に感じていることを伺い、話し合いの機会を持つことが出来た。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について職員全員で学んでいる。誤嚥時の対応についても研修を実施し、ハイムリック法・吸引ノズルの使用方法などは実践的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の後、災害時に備えて職員全員が、発電機・ジェットヒーターの作動訓練を行っている。避難訓練には町内会役員が参加し協力体制を強めている。災害時に備えて、3 日分の薬・お薬情報・非常食・水を常備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の立場に立った言葉かけや対応について、内部研修で事例を挙げて行い、プライバシー保護についても研修を実施している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいおやつや飲み物を選んで頂いたり、外食レクの際は、それぞれご自身で選択し、専門店の食事を楽しむことが出来た。ご本人様の希望で大相撲や高校野球の中継をリビングのテレビで見ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝、決まった時間に起きられない時は、本人の目覚めた時間に合わせ朝食を召し上がって頂いている。気分の変化で体操やアクティビティーに参加したくない時は時間をおいて個別に関わりを持つようになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に 1 回の訪問理美容でカット・カラーリングをされ、好みのヘアスタイルを楽しんでいる。洋服を着る順番が分からない時は季節に合わせた組み合わせの支援をしている。朝の整容では髪を整えたり、髭剃りの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様から当日のメニュー紹介をしてもらい食事への関心や楽しみが増すように働きかけている。食事の準備では、野菜の皮むきや盛り付け・配膳を行い、後片付けでは食器拭きやテーブルを拭くお手伝いを職員と共に楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分量は1500ccを目安にこまめにすすめている。一品ずつ偏った食べ方をする場合はバランス良く食べられるように副食を促している。必要に応じて、食べやすいように一口大に切ってお出しする事もある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を受けている方もいる。毎食後、ご自分で出来る方には声掛けをし、磨き残しのケアを行っている。歯科医師の指示もと、歯間ブラシを使用している方もいる。入床前に義歯をお預かりし義歯洗浄剤を使用して清潔を心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易におむつを使用せず、排泄の失敗を減らすため、その人のタイミングに合わせ、羞恥心に配慮した声掛けと誘導を行っている。トイレの場所がわからず間に合わない方のためにドアに表示を付けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が少ない方には、こまめに好みの飲み物をすすめている。その他、ヨーグルト・プルーン・オリゴ糖乳酸飲料など、便秘に効果がある飲食物を召し上がって頂く工夫をしている。また、腹圧をかけるような運動も取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの好みのお湯の温度や時間、入浴剤などの希望を伺うなど、その人に応じた入浴の支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操やストレッチ・レクリエーションなど適度な運動を行っている。朝食後や昼食後は居室に戻りベッドで横になる入居者様が数名いる。寝付けない時にはゆっくりとお話を伺い、安心して眠れるように支援している。。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットの際には、薬剤情報と照らし合わせ確認している。薬が変更になった時・臨時薬が処方された時は往診記録に細かく書き込み薬剤情報と合わせて職員全員が確認し異変を感じた場合は、医師に連絡するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の短歌を掲示板に貼って、みなさんに読んでもらうのを楽しみにしている方や、ご自身の刺し子の作品を居室に飾っている方がいる。入居者の皆様にホームの行事のお知らせをして下さる担当係の方がいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って、散歩に出掛けている。日用品や仏壇のお供え物の買い物支援や、散歩時に喫茶店への同行を行った。また、生まれ故郷へお墓参りに行ったり、大相撲観戦等、普段は行けないような場所に行けるよう、ご家族様が協力してくださっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の了解のもと、現金を所持している方がいる。外出レクで買い物に出掛けた時は、必要としている物を選び、ご自身で支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングでは落ち着かない方は、交流スペースに椅子を用意し、道外・市外に住んでいるご家族様とゆっくり電話をしたり、毎年、ご家族様に年賀状を送る支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたカレンダーや壁飾りは、入居者様と一緒に作成している。食事の時間は、心地良い音楽を選ぶようにしている。日差しの強い時は、レースのカーテンで調整し、空気の入替えを行うなど快適に過ごせるように配慮している。リビングには温度計を設置し快適な温度調整の目安にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓を囲んで数人でお話をされたり、ご自分の席に座りゆっくりと新聞や雑誌を読まれたり、ソファに横になってテレビを見ながらお昼寝をされたりと一人ひとりがご自由に過ごされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	盆栽を居室に置き、育てている方や、娘様からのプレゼントで手作りのパッチワークの壁飾りを居室に飾っている方、亡くなったご主人が作った陶芸品を居室に飾っている方もいる。入居前から愛用していた椅子でゆったりと寛いで過ごされている方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの居室の入口には手作りの表札を付け、ご自分の部屋が分かるようにしている。トイレのドアが分からない方のために表示を付けている。ご自分の席が分からなくなる方のためにテーブルにお名前前のシールを貼っている。		